

1級

テーマ別知識練習問題1 Excel概要

問題 1

1	イ	2	イ	3	ア	4	ウ	5	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 1-1 ページレイアウトビューは、ワークシートを用紙単位で表示し、ページの余白やヘッダー、フッターを表示した状態で、セルへの入力や編集を行うことができる表示モードである。

問題 1-3 名前を定義したセル範囲を選択した場合に、定義した名前が名前ボックスに表示される。

問題 2

1	ア	2	ア	3	ウ	4	イ
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 2-1 [なし (オブジェクトを表示しない)] オプションボタンを選択した場合、[挿入] タブから挿入する画像、図形、SmartArt、ワードアート等とグラフが新たに挿入できない。また、作成されていたこれらのオブジェクトは非表示となる。ただし、ヘッダー/フッターに [図の挿入] ボタンを使用して画像は挿入でき、ページレイアウトビューで表示される。なお、スパークラインとピボットテーブルは表示され、挿入できる。

問題 2-3 表示桁数で計算すると、入力された「3.14」は表示値「3」と同じになり、「2×3」が実行されるので結果の表示値は「6」となる。[表示桁数で計算する] チェックボックスを ON に設定すると、ブック内のすべてのセルの値が、表示桁数と同じ値に変更される。

問題 3

1	ア	2	イ	3	イ	4	ア	5	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 3-1 [新しいウィンドウを開く] を実行し、[並べて比較]、[整列] ボタンを使用して、ウィンドウを並べて表示すると、同じブックの異なるワークシートを表示して比較したり、同一のワークシートの異なる部分を表示して比較することができる。

問題 3-3 クイックアクセスツールバー上に追加したボタンは、Excel を再起動させた後も追加されたままである。クイックアクセスツールバーを初期設定に戻すには、[Excel のオプション] ダイアログボックスの [クイックアクセスツールバー] の [リセット] の [クイックアクセスツールバーのみをリセット] をクリックする。

問題 3-5 計算方法が手動のとき、ブック内全体を再計算する場合は F9 キー、アクティブなワークシートのみ再計算する場合は Shift+F9 キーを押す。または、[数式] タブの [シート再計算] ボタンをクリックして、再計算することができる。

問題 4

1	ウ	2	イ	3	ア	4	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---

- 問題 4-2 ユーザー定義で表示形式を作成する場合、「正の数；負の数；0（ゼロ）；文字列」のように、セミコロンで区切って異なる書式を指定できる。設問では、「0」（ゼロ）の書式として、「[青] #,##0」が設定されているので、フォントの色が青で表示される。
- 問題 4-3 日付データが入力されているセルにおいて、曜日を表示する場合に設定する表示形式の書式として「aaa」は「火」、「aaaa」は「火曜日」、「ddd」は「Tue」、「dddd」は「Tuesday」と表示される。
- 問題 4-4 [書式のクリア] は、書式情報をすべてクリアする。日付データの場合、日付の表示形式も解除され標準表示となるので、日付のシリアル値が表示される。

問題 5

1	ウ	2	ア	3	ア	4	ウ	5	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 問題 5-2 <図 5>の①は、「行列を入れ替える」貼り付けである。コピーしたセルを貼り付ける際、<図 5>の貼り付けオプションを選択して、値を貼り付けたり、書式のみを貼り付けたりすることができる。また、[形式を選択して貼り付け] ダイアログボックスを表示して、それらのオプションを選択して貼り付けることもできる。
- 問題 5-4 値「1」をもとに、2倍しながら「8」にするので、[種類]の[乗算]オプションボタンを選択し、[増分値]ボックスを「2」と設定する。

問題 6

1	イ	2	ア	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

- 問題 6-1 [シートの移動またはコピー] ダイアログボックスにおいて、[移動先ブック名]ボックスに、開いている他のブックや新しいブックを指定して、シートの移動またはコピーを行うことができる。
- 問題 6-3 入力規則は、[書式のクリア]ではクリアされない。[データの入力規則] ダイアログボックスの[すべてクリア]ボタンを使用する。

問題 7

1	ア	2	ア	3	イ	4	イ	5	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 7-3 [条件付き書式ルール管理] ダイアログボックスにおいて、ルールの追加は [新規ルール] ボタンを使用する。

問題 7-4 複数の条件を設定した場合、後から設定した条件が [条件付き書式ルール管理] ダイアログボックスの上の行に配置され、先に設定した条件よりも優先される。そのため、入力値「5」は、「10 以下」の書式が先に適用され、フォントの色は「青」になる。この順位は、ルールを選択し、[上へ移動]、[下へ移動] ボタンを使用して変更することができる。

問題 8

1	ウ	2	ア	3	ア	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 8-1 [書式] ボタンから、セルに設定済みの書式を指定して、検索することができる。書式のみを条件にして検索する場合は、[検索する文字列] ボックスに何も入力しなくてもよい。

問題 8-2 検索条件に任意の文字を指定する場合に、ワイルドカード文字を使用する。「?」は任意の 1 文字を表し、「*」は任意の複数の文字列を表す。「全*会」、「**会」では、「全校集会」も検索される。

1級

テーマ別知識練習問題2 数式と計算

問題 1

1	イ	2	イ	3	イ	4	ウ	5	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 1-2 DATE 関数は、引数「年, 月, 日」で指定した日付のシリアル値を返す。ただし、セルの表示形式が「標準」の場合、日付形式で表示される。設問では、引数「月」に SUM 関数で「15」が指定されているが、月が「12」を超えたときは、引数「年」の 1 月から 15 か月目とみなされるので、次の年の「2017/3/10」となる。

問題 1-3 CHOOSE 関数で、引数「インデックス」に小数の値が指定された場合、整数部分だけが使用される。

問題 1-4 TRUNC 関数は、指定した桁数になるように切り捨てる。引数「桁数」は省略することができ、省略した場合は整数になるよう小数部分を切り捨てる。

問題 1-5 INT 関数は、小数部分を切り捨てて、指定した数値を超えない整数にする。設問は、「-10.5」を超えない整数になるよう小数部分を切り捨てるので「-11」となる。

問題 2

1	ウ	2	ウ	3	イ	4	ウ	5	ア	6	イ
7	ア										

- 問題 2-1 MID 関数は、文字列の任意の位置から指定された文字数を返す。半角と全角にかかわらず、1文字を1として処理される。
- 問題 2-2 エラー値「#VALUE!」は、引数のデータが正しくない場合に表示される。CHOOSE 関数では、引数「インデックス」は1～254の数値を指定する。
また、エラー値「#DIV/0!」は、0による割り算が行われた場合に表示され、エラー値「#REF!」は、無効なセルを参照している場合に表示される。
- 問題 2-4 SUMIF 関数は、指定した条件に一致するセルの値を合計する。引数は「範囲、検索条件、合計範囲」であるが、引数「合計範囲」を省略した場合、引数「範囲」において「検索条件」と一致した値のみを合計する。
- 問題 2-5 住所から市名を抜き出すため、RIGHT 関数で、「住所」の文字列の末尾（右端）から「市名」に該当する文字数の文字列を求めている。また、RIGHT 関数の引数「文字数」として、LEN 関数で求めた「住所」の文字数から、SEARCH 関数で求めた文字「県」の位置の文字数を減じて市名の文字数を求めている。
- 問題 2-7 LARGE 関数は、データ範囲の中から数値の大きい順に順位を指定して、その順位に対応する数値を求めるので、引数「順位」に「0」を指定すると、順位が求められずエラー値「#NUM!」が返される。

問題 3

1	イ	2	ア	3	ア	4	イ	5	イ	6	ア
7	ア	8	イ								

- 問題 3-1 OR 関数は、いずれかの引数が「TRUE」のときに「TRUE」を返す。すべての引数が「TRUE」のときに「TRUE」を返す関数は AND 関数である。
- 問題 3-4 SMALL 関数は、指定された範囲の中で、小さい方から、指定した順位にあたる値を返す。指定された範囲の中で一番小さい値を返すのは MIN 関数である。
- 問題 3-5 PHONETIC 関数の引数「参照」で指定したセルのふりがなを、PHONETIC 関数を設定したセルに表示する。漢字が入力されたセル内の文字列にふりがなを表示する場合は、[ホーム] タブの [ふりがなの表示/非表示] ボタンを使用する。
- 問題 3-8 MOD 関数は、引数「数値」を引数「除数」で割った余りの数値を返す。

問題 4

1	ウ	2	イ	3	ウ	4	ウ	5	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 4-4 複数の条件を満たすセルの値を合計する場合、SUMIFS 関数が利用できる。書式は、「SUMIFS (合計対象範囲, 条件範囲 1, 条件 1, 条件範囲 2, 条件 2, ...)」で、設問では、「日付」と「品名」の条件に一致した「数量」の値を合計する。

問題 4-5 TEXT 関数は、数値を指定した表示形式で文字列として変換する。設問では、日付データ「2016/5/24」を「mm-dd」の表示形式に変換して表示する。「mm」は月、「dd」は日を、1桁の場合は先頭に「0」を付けて表示する。

問題 5

1	ウ	2	イ	3	イ	4	ア	5	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 5-4 AVERAGEIF 関数は、条件を満たすセルの平均の値を返す。書式は、「AVERAGEIF (範囲, 条件, 平均対象範囲)」で、引数「条件」と一致する引数「範囲」と平均を求める範囲が異なる場合、引数「平均対象範囲」を指定する。

問題 5-5 IFERROR 関数は、数式がエラーの場合に指定の値を返し、それ以外の場合は数式の結果を返す。ABS 関数は、数値の絶対値を返す。
設問では、セル E4 に「=IFERROR(ABS(D4-\$E\$1), "")」が設定され、それぞれの走者の「記録」から「標準記録」の値を減じた絶対値を表示するが、数式の結果がエラーの場合は空白にする。この数式をコピーした場合、セル D9 が数値ではないため、セル E9 では ABS 関数の数式の結果がエラー値「#VALUE!」となり、IFERROR 関数により空白となる。

1級 テーマ別知識練習問題3 グラフ機能

問題 1

1	イ	2	ア	3	ウ	4	イ	5	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 2

1	ウ	2	ウ	3	ア	4	イ
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 3

1	ア	2	イ	3	ア	4	ア	5	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 3-2 ピボットグラフの系列の行と列の切り替えは、[ピボットテーブルのフィールド]作業ウィンドウにおいて、[凡例フィールド]と[軸フィールド]のアイテムを移動するか、[ピボットグラフツール]の[デザイン]タブの[行/列の切り替え]ボタンを使用する。

問題 3-4,3-5

 (グラフフィルター) ボタンの[値]タブで、系列の表示/非表示またはカテゴリのON/OFFを切り替えることができる。ただし、ピボットグラフでは  ボタンは使用できない。

問題 4

1	イ	2	ア	3	イ	4	イ
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 4-1 「縦(値)軸」は、通常「0」の位置で「横(項目)軸」と交差する。最小値が負の数の場合、「横(項目)軸」がプロットエリアの中に入り込んでしまうため、設問では[横軸との交点]の[軸の値]を「-5.0」に設定し、<図 1>のように表示している。

問題 4-3 「高低線」は、2-D折れ線グラフにおいて、データ要素の最大値と最小値を結ぶ線で、値の範囲を表す。「降下線」は、面グラフおよび折れ線グラフにおいて、各データ要素から垂直に「横(項目)軸」を結ぶ線である。「ローソク」は、複数のデータ系列が存在する2-D折れ線グラフにおいて、最初の系列と最後の系列のデータ要素の間に示される四角形で、各要素間の差を表す。

問題 4-4 <図 6>では、[グラフの配置先]で[新しいシート]オプションボタンが選択され、シート名「気温と降水量」が設定されているので、グラフは新しいグラフシート「気温と降水量」に配置される。

問題 5

1	イ	2	ウ	3	ア	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 5-2 「区分線」は、補助円/縦棒付き円グラフでは既定で表示され、主グラフと補助グラフの対応を表す。2-D積み上げ横棒/縦棒グラフと2-D100%積み上げ横棒/縦棒グラフでは、データ系列の各要素を結び、値の相違を強調する。

問題 5-3 補助縦棒グラフには、元データの最後の2項目が表示されている。[系列の分割]は「位置」、[補助プロットの値]は「2」に設定されている。

問題 5-4 破線に設定されているのは、各項目間の数値軸の目盛を結ぶ線で、「レーダー(値)軸目盛線」である。レーダーでは、各項目が中心から放射状に配置されるので、「横(項目)軸目盛線」はない。

問題 6

1	イ	2	ア	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 6-1 [3-D 回転] は、X 軸、Y 軸を基準に回転できる。

問題 6-3 折れ線グラフで複数のデータ系列がある場合、線の太さを変えるには、各データ系列をそれぞれ選択して変更する。

問題 6-4 データテーブル内のフォントの色の変更は、[データテーブルの書式設定] 作業ウィンドウで行うことができる。また、[ホーム] タブの [フォント] グループでも、フォントの色やサイズを変更することができる。

1級**テーマ別知識練習問題4** オブジェクト**問題 1**

1	イ	2	イ	3	ア	4	イ
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 1-1 [描画モードのロック] をクリックすると、選択した図形を連続して複数描画することができる。描画状態を解除するには、Esc キーを押すか、選択されている図形のボタンをクリックする。

問題 1-2 [図形の編集] ボタンの [図形の変更] を使用すると、書式はそのまま図形を変更することができる。[頂点の編集] では、頂点のハンドルを表示して、図形の形状を細かく調整して変更することができる。

問題 1-4 カギ線コネクタと図形が接続されているとき、図形を選択して移動した場合は、カギ線コネクタも接続したまま移動する。カギ線コネクタを選択して移動した場合は、図形との接続が切れてカギ線コネクタのみ移動する。

問題 2

1	ア	2	ア	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 2-1 図の原型のサイズを変えず、必要な部分だけを切り出すにはトリミングを使用する。

問題 2-3,2-4

[選択] 作業ウィンドウでは、シート上のオブジェクトが一覧表示され、操作対象とするオブジェクトを選択したり、個々の表示/非表示を切り替えたり、オブジェクト同士の前/背面の移動を行うことができる。

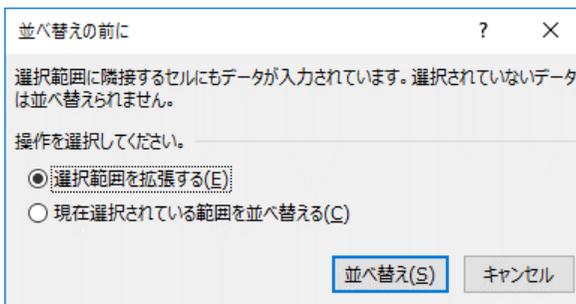
1級

テーマ別知識練習問題5 データベース機能

問題 1

1	イ	2	ア	3	ア	4	ア	5	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 1-1 1つの列をキーに  ボタンを使用して並べ替える場合、キーとなる列内のセルを1つ選択して実行することができる。なお、並べ替えのキーとなる列全体のセル範囲を選択して  ボタンをクリックした場合、下図のような[並べ替えの前に]ダイアログボックスが表示され、[選択範囲を拡張する] オプションボタンを選択して、リスト全体の並べ替えを実行できる。



問題 1-4 [並べ替えオプション] ダイアログボックスの[方向]で[列単位]オプションボタンを選択すると、[並べ替え]ダイアログボックスのキーの設定は「行」で行うようになる。設問では、年度順に並べ替えるので、「行2」がキーとなる。また、[並べ替えオプション]ダイアログボックスでは、並べ替えにふりがなを使うか使わないかの設定を行うことができる。

問題 2

1	ウ	2	ア	3	イ	4	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 2-1 検索条件範囲において、異なる行に条件を設定した場合は OR 条件となり、「対前月」が「減」または「対前年」が「減」のいずれかの条件を満たす行が抽出される。

問題 2-2 検索条件範囲において、同じ行に条件を設定した場合は AND 条件となり、「支出」が「70000より大きい」かつ「構成比」が「25%より大きい」のどちらの条件も満たす行が抽出される。

問題 2-3 条件の設定にワイルドカード文字を使うことができる。設問では、「*費」という条件により、文字数に関係なく「費」が付く「科目」、かつ「対前年」が「減」の行が抽出される。

問題 3

1	イ	2	ア	3	ア	4	ア	5	イ	6	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 問題 3-1 <図 3>のピボットテーブルは、[列] ボックスに「営業担当」、[行] ボックスに「取引先」を設定している。
- 問題 3-2 [ピボットテーブルのフィールド] 作業ウィンドウにおいて、各ボックスに設定したフィールドのボタンをクリックして表示されるコマンドから、[レポートフィルターに移動]、[行ラベルに移動]、[列ラベルに移動]、[値に移動] を選択して、フィールドを移動することができる。また、フィールドのボタンをボックス間でドラッグして、直接移動することもできる。
- 問題 3-4 スライサーは、ピボットテーブルを選択し、[ピボットテーブルツール] の [分析] タブの [スライサーの挿入] ボタンから [スライサーの挿入] ダイアログボックスを表示し、作成するフィールドのチェックボックスを ON に設定して作成することができる。スライサーを表示すると、アイテムをクリックするだけでピボットテーブルをフィルター処理し、すばやく目的のアイテムを表示することができる。
- 問題 3-5 [クリア] ボタンから [すべてクリア] をクリックすると、ピボットテーブル全体を削除する。レポートフィルターのボタンや、スライサーでフィルター処理された状態を解除して、ピボットテーブルをすべて表示するには、[クリア] ボタンから [フィルターのクリア] をクリックする。
- 問題 3-6 ピボットテーブルで日付をフィルター処理するため、タイムラインを挿入する。タイムラインでは、年、四半期、月、日の 4 種類のレベルを設定できる。

問題 4

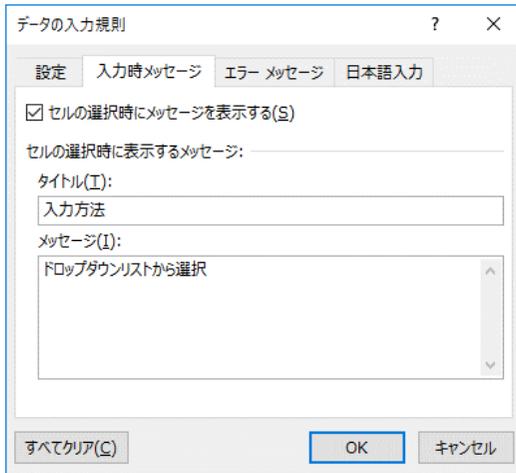
1	ア	2	イ	3	イ	4	イ
---	---	---	---	---	---	---	---

- 問題 4-1,4-2
 小計機能で 2 回以上の集計を行った場合、集計表の列番号の左側に表示されるアウトラインレベルのボタンが左側から順に配置される。また、集計する際、集計する [グループの基準] となるフィールドの順番に、優先されるキーを指定して、あらかじめ並べ替えておく。設問では、最優先されるキーを「分野」、次に優先されるキーを「営業担当」で並べ替え、最初に [グループの基準] ボックスに「分野」と設定して、2 度目に「営業担当」を設定して集計を行っている。
- 問題 4-3 2 度目の集計の際、[現在の小計をすべて置き換える] チェックボックスが ON に設定されていると、最初の集計は解除されてしまう。設問の場合、最初の「分野」の集計は解除されずに「営業担当」の集計がされているので、[現在の小計をすべて置き換える] チェックボックスは OFF に設定して、2 度目の集計を行う。
- 問題 4-4 設問のように小計機能によってアウトラインが作成されている場合、[アウトラインのクリア] をクリックすると、集計行は表示されたままで、列番号の左側に表示されているアウトライン記号が削除される。

問題 5

1	ア	2	ウ	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 5-3 [入力時メッセージ] タブにおいて、下左図のように設定すると、セルの選択時は下右図のように表示される。ただし、[タイトル] ボックスや [メッセージ] ボックスは、必ずしも入力しなくてもよい。また、入力した場合でも、[セルの選択時にメッセージを表示する] チェックボックスを OFF に設定することで、メッセージを表示しないようにできる。



	A	B	C	D
1	コード	取引先	分野	営業担当
2	B02	川瀬自動車	自動車	
3	C01	カワムラ鉄工	鉄鋼	
4	D04	五勝商会		
5	C02	杉山工業		
6				
7				

問題 5-4 入力規則が複数のセルに設定されている場合、1 つのセルを選択して、[すべてクリア] ボタンをクリックすると、選択したセルのみ入力規則がクリアされる。同じ入力規則が設定されている複数のセルを同時にクリアする場合は、あらかじめ対象となるセル範囲を選択して、[すべてクリア] ボタンをクリックするか、または、[設定] タブにおいて、[同じ入力規則が設定されたすべてのセルに変更を適用する] チェックボックスを ON に設定し、対象となるセルが自動的に範囲選択された状態で、[すべてクリア] ボタンをクリックする。

1級

テーマ別知識練習問題6 Excelの高度な機能

問題 1

1	イ	2	ア	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

- 問題 1-1 マクロ名に記号やスペースは使用できない。また、マクロ名の先頭に数字は使用できない。
- 問題 1-2 [マクロの保存先] ボックスで「新しいブック」、「作業中のブック」を設定した場合、そのブックを開かないと、保存したマクロを実行することができない。「個人用マクロブック」を設定した場合、マクロ記録時のブックを開かずにマクロを実行することができる。
- 問題 1-4  は [マクロの表示] ボタンで、クリックすると、[マクロ] ダイアログボックスが開く。[マクロの記録] ボタンは  である。

問題 2

1	ア	2	イ	3	イ	4	ア	5	イ	6	ア
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 問題 2-2 半角英小文字の「w」をショートカットキーとして割り付けたとき、Ctrl キーを押しながら、w キーを押す。Ctrl+Shift キーを押すのは、半角英大文字の「W」を設定した場合である。
- 問題 2-5 マクロ実行時、決まったセルに対して処理を行う場合、絶対参照で記録する。アクティブセルから相対参照で記録する場合、[表示] タブの [マクロ] ボタンから [相対参照で記録] を ON にする。[開発] タブが表示されている場合は、[相対参照で記録] ボタンを ON にする。

問題 3

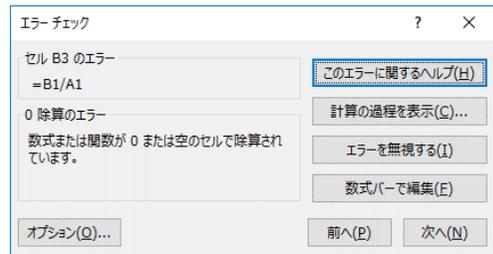
1	イ	2	ア	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

- 問題 3-1 列見出しが一致していない表を統合する場合、[統合の設定] ダイアログボックスにおいて、[統合の基準] の [上端行] チェックボックスを ON に設定して、項目による統合を行う。
- 問題 3-2 [統合の設定] ダイアログボックスにおいて、[統合の基準] の [上端行]、[左端列] チェックボックスがどちらも OFF に設定されている場合、並び順に従って位置による統合が行われる。
- 問題 3-3 統合元の表が別のブックにあっても、統合することができる。

問題 4

1	イ	2	ア	3	イ	4	ア	5	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 4-1 <図 1>のトレース矢印は、セル B3 を選択して、 参照元のトレースをクリックしたものである。 エラー チェック ボタンをクリックすると、右図の [エラー チェック] ダイアログボックスが表示され、ワークシートにあるエラーを順次チェックすることができる。



問題 4-4 複数のトレース矢印が表示されている場合、 参照元トレース矢印の削除(P) と  参照先トレース矢印の削除(D) は、アクティブセルから遠いレベルのトレース矢印から順番に削除される。 トレース矢印の削除 ボタンをクリックすると、すべてのトレース矢印が一度に削除される。

問題 4-5 数式が入力されているセルの計算結果を数式表示にするためには、[数式] タブの [数式の表示] ボタンをクリックする。[数式の検証] 機能を使用すると、数式の計算が行われる順に計算結果を確認することができ、ネストした数式や参照先の多い複雑な数式などの計算がどのように行われたのかを確認するのに便利である。

問題 5

1	ア	2	ア	3	ア
---	---	---	---	---	---

問題 6

1	ア	2	ア	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 6-1 データテーブルは、数式に様々な値を代入して計算された結果がセル範囲にまとめられたものである。単入力テーブルは、1 つまたは複数の数式に 1 つの変数を代入するもので、行か列のいずれかに値を入力する。複入力テーブルは、1 つの数式に対して 2 つの変数を代入する場合で、行と列の両方に値を入力する。

問題 6-4 データテーブルの計算結果は配列数式となるため、1 つのセルだけを選択して削除することはできない。テーブルの結果範囲全体を選択して削除する。

問題 7

1	ア	2	ウ	3	ウ
---	---	---	---	---	---

問題 7-1 [セルの書式設定] ダイアログボックスの [保護] タブにおいて、[表示しない] チェックボックスを ON に設定して、シートの保護を実行すると、数式の結果はセルに表示されるが、入力した数式は数式バーに表示されなくなる。

問題 8

1	イ	2	ア	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題 8-1 [ソルバーのパラメーター] ダイアログボックスにおいて、[すべてリセット] ボタンをクリックすると、パラメーターで設定した内容がクリアされる。

問題 8-3 [制約条件の精度] ボックスには、制約条件セルの値を制約条件にどれだけ近づけたかを指定する。この値が「1」に近づくほど、精度は低くなる。また、既定値 0.000001 よりも小さい値を指定すると、問題解決の処理時間は長くなる。